

式 辞

能登半島地震から3か月が経過しましたが、まだ復旧・復興の途上です。犠牲になられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

震災を乗り越えた桜の樹々に花が咲き始めた本日、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、「令和6年度入学式」を挙行できますことに深く感謝いたします。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、今日までお子様を育ててこられた保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

1月1日の地震により、新入生の皆さんの高校受験は例年とは大きく異なるものになりました。皆さん自身が被災し、中学校も休校する中での受験勉強、志望校や通学手段の被害状況と復旧見込みの情報把握などたくさんの苦労と不安があったことと想像します。そのような中、七尾高校に期待し、本校を選んでくれたことに心より感謝申し上げます。

発災後、私たちはたくさんの方々に支えていただきました。人が生きていくうえで、人が大きな励みとなることを経験し、私たちは「仲間」の大切さを学びました。

その大切な「仲間」、切磋琢磨できる同期、目標となる先輩が七尾高校にはたくさんいます。そして、皆さんが成長できる豊かな「環境（モノとコト）」がここにはあります。

新入生の皆さんが入場される際に鳴り響いた鐘の音は、本校創立120周年の記念モニュメント「未来（あした）への響（ひびき）」からの鐘の音でした。その音色で後輩たちを祝福したいとの思いから同窓生の皆様の温かいご支援でつくられました。

校歌を披露した合唱隊は部活動の有志によって編成され、新入生の皆さんを明るく元気な姿で歓迎したいとユニフォーム姿で歌いました。先輩たちは皆さんと一緒に活動できることをとても楽しみにしています。

七尾高校には能登全域と金沢・加賀から生徒が集まり、各教科の学習に励むとともに、その成果を活用して、能登の自然・社会をテーマに探究しています。

「科学技術は一人の天才がつくるものではなく多くの科学者や技術者の協力の成果である」と言われます。七尾高校では科学的に研究を進める力と、分野を超えて協力し活動する力の育成を図っています。能登の創造的復興を目指して多様なヒト・モノ・コトとつながり、取り組んでいきます。今年度は奥能登や近畿・東方地方の高校などと連携・協力して探究する予定です。

新入生の皆さん、このような七尾高校で学習・部活動・学校行事等に思いっきり取り組み、大いに自分の可能性を試してください。うまくいかず悩むことも多々あると思いますが、その時は、今日の感激と皆さんを支え導いてくださった方々への感謝の気持ちを思い出してください。3年間で培われる力は様々な場面で活用でき、皆さんの人生の原動力となるはずです。たくましく成長することを期待します。

保護者の皆様、これから始まるお子様の3年間は、人生の方向を模索する最も大切な時期であり最も大きく成長するときです。私たち教職員は、皆様方の大切なお子様をお預かりし、全力で支援・指導いたします。お子様の心豊かで健全な成長のためには、ご家庭と学校が手を携えて協力することが重要と考えます。どうか、本校の教育活動についてご理解をいただき、ご支援とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後になりますが、新入生の皆さんの高校3年間は、充実したものとなることを願い、式辞といたします。

令和6年4月8日
石川県立七尾高等学校
校長 樋上 哲也